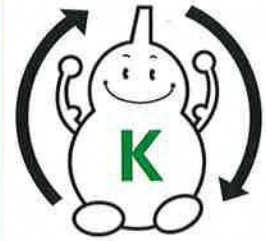


ごみジャーナル

No.48

発行／ごみ問題を考える草津市民会議

編集／広報委員会



フルリーナちゃん
(ごみ問題のキャラクター)



南笠東学区



志津学区



山田学区



常盤学区



大路区



玉川学区



老上西学区



矢倉学区



笠縫東学区



笠縫学区



草津学区

3R(スリーアール)って知っていますか？(次のページから紹介します)



今年度も各地域で行われたふれあいまつりにブース出展し、「ごみ減量射的ゲーム」を活用して、ごみの減量啓発活動を行いました。ごみ減量射的ゲームとは、ごみを減らすために良い行動が描いてある的を狙うゲームです。

少し気を付けるとできるごみの減量の取組が多くありますので、ごみ問題が家族間や周りで話題となり、関心を持って取り組んでいただけたらうれしいです。ご協力をお願いします。

シャンプーや洗剤などは、つめかえ用を買おう!



玉川学区

「ごみ減量射的ゲーム」に多くの子どもたちが参加し、周りの来場者も巻き込んで本会会員は休憩もできない状態でした。標的に描かれている内容を大きな声で読んでもらい、絵を見てから射的を実施することで内容がうまく伝わったように感じます。参加賞について、食品ロス削減の取組である“3010運動+(さんまるいちまるうんどうプラス)”のロゴが入ったエコバッグが大人の方には人気でしたが、子どもたちには、エコボールペンが人気で、4色ある中からどの色にしようかなと真剣に考える姿は、とても微笑ましかったです。



ペットボトルは水洗いして捨てよう!



矢倉学区

「地球にやさしいイベント」のテーマに沿い、「ごみ箱はありません。ごみ袋持ってきてくださいネ!ごみは持って帰ってくださいネ!」とアナウンスがあり、1日中すばらしいイベントでした。

その一角で、本会は「ごみ減量射的ゲーム」を実施し、お母さんが真剣な顔をして標的を読み、子どもに教える姿が印象的でした。子ども達を中心にごみの減量を学ぶ良い機会となったと思います。



買い物のおときはマイバッグを持とう!

拾って見せて 正しく分別だ!!

イベント名:若草・岡本西地区第15回スポーツ祭り(志津南学区)
 日程:令和元年9月23日 場所:志津南小学校 体育館
 参加者:約400名



スポーツ祭りの種目の中で、間違いやすいごみの分別をテーマとした競技として、「拾って見せて正しく分別だ」を5年前から実施されており、取材してきました。

競技内容は、体育館中央に、ごみに見立てた廃棄物品名の書かれたカードを裏向きに並べます。スタートの合図で選手はカードを一枚拾い、内容を確認してごみ置き場である机の該当の分別エリアに置きます。チームの5名全員が置き終わった時点でリーダーが手を挙げて完了の合図をします。分別結果の確認をするため、選手は自分の分別し

たごみを頭上に挙げて場内に知らせ、運営を行う環境美化委員が結果を場内に○、×で知らせます。間違いの場合は、内容を場内に詳しく説明します。“分別結果の正解数”と“スタートから終了までのタイム”で順位を決めます。

誰でも参加でき、学びながら楽しく競技されていました。多くの方がごみ分別を理解されていますが、この競技は日々の生活にとっても参考になっているようです。応援の方々を巻き込み大いに盛り上がり、スポーツ祭りに欠かせない定着種目になり、来年もこの競技をとの声も聞こえてきました。

本会も発足から29年が経過し新しい会員も増えたため、各会員が共通の知識や認識をもつ機会として、市などが提供している資料や情報をもとにごみの処理などについて学ぶ会員向けセミナーを開催しました。

第1回

テーマ:草津市のごみ処理、リサイクル施設見学

前半は、草津市資源循環推進課による『草津市のごみ処理について』の講演でした。

草津市のごみに関するデータの情報提供があり、ごみの量は、草津市の人口増加に比例して2年連続で増加傾向にあるとのことでした。

資源化できるごみと資源化できないごみで最終の処理方法が異なる説明がありました。みなさんは、資源化できないごみの大半を占める焼却ごみの灰は何処へ埋め立てるのかご存知ですか。現在は、大阪湾に埋め立てさせてもらっていますが、埋立地の容量には限りがあることや、処理や大阪湾への運搬費用が発生していること

から、ごみの減量が重要になってきます。具体的にごみの減量に関する手法として、マイバッグの持参、生ごみの水切りを徹底することや生ごみを堆肥化できる段ボールコンポストの活用などが考えられます。

後半は、クリーンセンター内のリサイクル施設を特別に見学させていただきました。出荷前の圧縮梱包したものに汚れたプラスチックが混在しているのを見て、資源化を進めるためにも私たち一人ひとりがさらに分別の徹底をする必要があると感じました。



第2回

テーマ:マイクロプラスチック問題、ごみ収集の現状

前半は、滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課による『マイクロプラスチック問題と琵琶湖での実態について』の講演でした。

県の現状認識は、琵琶湖に限って言えばマイクロプラスチックによる健康や生態系への影響は、現時点では認められないものの、世界中で進められている研究を注視しながら、プラスチックごみ全般に対する3Rなどの取組を進めることが必要とのことでした。

滋賀県で実施されている取組としては、昭和55年から7月1日を『びわ湖の日』と定め、県民と漁業者が丸となって、琵琶湖流域河川や湖中のプラスチックごみ等の回収を行っておられます。海外を見渡すと米・英・仏・加・NZから韓国・台湾まで既にマイクロビーズの規

制策を打ち出しています。日本は、業界団体や個別企業の自主規制のみの対策ですが、滋賀県ならではの取組が急務ではないかと感じました。

後半は、大五産業株式会社による『草津市家庭ごみ回収の変遷』の講演でした。現在は市内約2,300ヶ所のごみ集積所を回り、ごみの回収をされています。適正にごみを処理するために、私たちは、ごみの分別をきちんと行い、ごみ出し時間も厳守しましょう。

“プラスチックごみ”に関する啓発本
 ①海洋プラスチック汚染(岩波書店)
 ②みんなで考えたいプラスチックの現実と未来へのアイデア(東京書籍)



コラム

食品ロス削減に関する日本での取組

「食品ロスの削減の推進に関する法律」(略称 食品ロス削減推進法)が、令和元年10月1日に施行されました。

食品ロスを削減していくための基本的な視点として、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくこと、まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、できるだけ食品として活用するようにしていくことが挙げられます。

団体の動きでは、全国フードバンク推進協議会がフードバンク(食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体)の組織化を加速し、加盟団体を2020年までに現在の7割増の50団体を目指すことを発表しました。企業では、フードバンクを活用し、食品

を寄付するコンビニや食品業界なども増えてきており、2030年までに食品ロス半減に取り組む企業もあるようです。

また、食べられる在庫と消費者をネットにつなぐ“フードシェア”の取組も進んでいます。

家庭からの食品ロスは291万トンと言われており、日本国内で発生する食品ロス643万トンの約45%を占めます。(2016年推計)

家庭からの食品ロスを少しでも減らす為に以下の事を励行しましょう。

- ①買い物の前に冷蔵庫をチェック
- ②使い切れる分だけ購入
- ③家にあるもののみ料理する日を作る
- ④余分の食材は他の料理に作りかえる
- ⑤余剰食品をフードバンクに提供する

地域での段ボールコンポストの講習会

開催日: 令和元年10月26日(土)
 場所: 笠縫まちづくりセンター 大会議室
 参加者: 15名 後援: 草津市



段ボールコンポスト部会の会員が講師となり、コンポストの概要や使い方を説明しました。参加者には既に段ボールコンポストを実践をしている方もおられ、取り組む中でのわからない点やうまくいかない点等についての質問があり、活発な講習会となりました。講習会終了後、段ボールコンポストを簡単にはじめることができる基材セットを7名の方が購入されました。

ご案内

- * 段ボールコンポスト
基材セット販売中
1セット500円
- * 講習会受付中
10名程度から受付

事務局(草津市くさつエコスタイルプラザ)までお問い合わせください。

段ボールコンポストって？

段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、段ボール箱に土壌改良材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥が作れます。



段ボールは通気性がよく、生ごみの水分を逃がしたり、発酵に必要な空気を通すのに適しています。においも少なく、場所も多く取らないので、集合住宅のベランダでも取り組むことができます。

事務局

ごみジャーナル第48号についてのご意見、ご感想をお気軽に左記までお寄せください。
 〒525-0043
 草津市馬場町1200番地25
 草津市役所くさつエコスタイルプラザ内
 「ごみ問題を考える草津市民会議」
 広報委員会
 TEL (077) 561-6580
 FAX (077) 561-6583
 E-Mail: ecostyle@city.kusatsu.lg.jp

【広報委員】
 ・松村 幸子 ・山本 正行 ・木村 兼久
 ・石田 治郎 ・林 和臣 ・清水 節子
 ・油布 輝義 ・富山 康夫 ・山口 尚孝

市内散在性ごみ一斉清掃

各町内会や各事業所のご協力を得て、令和元年11月24日を中心に、市内散在性ごみ一斉清掃を実施しました。ごみ回収拠点の各小学校では、集められたごみを分別して、持ち込まれ、最終的なごみの総量は、4,180kgにもなりました。地域美化にご協力いただき、ありがとうございます。本取組を通して、住みよい生活環境は自らの手で作り上げていくという認識が深まったものと考えています。今後とも、地域などでの取組をよろしく願います。



編集後記

鶏の春 魚より多し プラのごみ

先達が守り、育んできた琵琶湖の姿が、この様であってはなりません。本会の主要な取組である「市内散在性ごみ一斉清掃」は、捨て防止市民行動の日」は、地道で息の長い活動として、これまで多くの皆様に関わっていただきました。さあ、駐車場に何げなく捨てられたレジ袋が、琵琶湖に流れ出す前に行動しましょう。